

日本経営学会第86回大会論題趣旨

1. 統一論題「新しい資本主義と企業経営」

- サブテーマ① アジア企業の経営から学ぶ
- サブテーマ② 「アジアは内需」の時代の企業経営
- サブテーマ③ 新しい資本主義の現実と経営者の意識

2. 統一論題設定の趣旨

世界は新しい資本主義の時代に突入している。リーマンショック後、先進諸国の経済が不安定性を増すと共に、BRICsの台頭によって世界が多極化を進めている。先進国から発展途上国への資本・知識・技術の流入による発展途上国の発展・追い上げというこれまでのパターンが弱まり、新たに自律的な発展のダイナミクスを呈する経済圏が発達し、世界経済のダイナミクスが大きく変わってきたのである。その結果、かつて重要だった東西も南北も、重要な二項対立とは言えなくなってきた。特に、この「自律的に発展し、新しい知識・技術・資本を自ら生成する」という傾向は、アジアにおいて著しい。アメリカへの輸出拠点としてのアジア内の分業ではなく、それ自体で知識・技術を生み出して、互いに互いを求め合い、自律的に発展を遂げる経済システムとしてのアジア経済圏が生まれてきたように思われる。アジアが、リーマンショック後に多極化を進める新しい資本主義の具体的な象徴として、またその中心として発展しているのである。

新しい資本主義、とくにその中心であるアジア経済圏は、日本企業に新たな課題を多数投げかけている。第86回大会では、その多様な思考課題を3つのサブテーマに分けて議論することにした。

①アジア企業の経営から学ぶ

自律的な発展を遂げるアジア経済圏には優れた企業が多数出現してきている。これらの優れた企業の経営から日本の経営者も経営学者も真摯に学ぶ必要があると思われる。もちろんその発展の著しさ故に、優れた経営の影に隠された問題点もおそらく存在するであろう。その両面を視野に入れて、アジア企業の経営を深く考察する必要がある。実務家の方の視点も盛り込んで、アジアの先進的企業から学ぶための議論を展開する。

②「アジアは内需」の時代の企業経営

日本を中心として経営を考えるのではなく、まずアジア全域を視野に入れて、そこからすべての経営を考えていくのが日常になりつつある。そのような大きな視点で経営を行なうということは実態としていかなることであるのか。またそのような経営を行なうことで、企業はどのように変わっていくのだろうか。自律的発展を遂げるアジア経済圏に直面した日本企業の現実を見定め、その本質的な論理を明らかにする議論を行ないたい。

③新しい資本主義の現実と経営者の意識

このような新しい資本主義の現実が登場してきている現在、本当にわが国の企業経営はその変化に意識の面で先取り・追従が来ているのだろうか。またわれわれ経営学者自身がそのような意識の変化を先取り来ているのだろうか。現実と経営者の意識、あるいは経営理論の現状の対比を行なう必要がある。たとえば、もの作りの重視や差別化戦略の奨励など、本当に現在の経営理論が示唆する方向が適切だと言えるのかなど、現状を多様な視点から検討する。